

## 第6章 総合的な評価

前章において、本事業の実施により影響を及ぼすおそれのある生活環境影響調査項目（大気質、騒音、振動、臭気（悪臭）、水質、地下水）について現況調査、予測及び影響の分析を行った。

その結果、各項目とも事業の実施による影響の回避又は低減に係る対策は適切であり、かつ施設の稼働後も生活環境の保全目標を達成すると評価された。

以上のことから、総合評価として、本事業が周辺的生活環境に及ぼす影響はほとんどないと評価した。

なお、本事業の実施に当たって、予測されない影響が生じた場合及びその恐れが予想された場合は速やかに対策を講じ、周辺環境に影響が生じることがないように配慮を行う。

表 6-1 総合評価（1/4）

大気質	埋立作業による紛じん	調査の結果	令和5年～6年にかけて実施した降下ばいじんの四季調査の結果、春季が最大となり1.2g/m <sup>2</sup> /月となった。
		予測の結果	建設機械の稼働に伴う季節別降下ばいじん量は、最大季節時で北側敷地境界で9.3g/m <sup>2</sup> /月となった。
		生活環境の保全上の目標	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」において参考値として提案している10g/m <sup>2</sup> /月であること（参考基準）
		影響の程度	本事業計画における大気汚染防止対策は適切であり、また、予測の結果、全ての項目が生活環境の保全上の目標を満たしている。よって、本事業の実施により大気質に及ぼす影響はほとんどないと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立区域への散水の実施</li> <li>・排ガス対策機械の使用</li> <li>・廃棄物運搬車両の出口でのタイヤ洗浄</li> <li>・埋立地周囲のネットフェンスの設置</li> <li>・日常の管理作業で飛散物を取り除く</li> </ul>
	廃棄物運搬車両の走行による排出ガス	調査の結果	令和5年の冬季に実施した二酸化窒素、浮遊粒子状物質の調査の結果、日平均値は環境基準と比較しても非常に低い値であった。
		予測の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物運搬車両から排出される排出ガス（年平均値）は、二酸化窒素：0.00011～0.00012ppm、浮遊粒子状物質：0.000006mg/m<sup>3</sup>となった。</li> <li>・1時間値の1日平均値は、二酸化窒素：0.013ppm、浮遊粒子状物質：0.024mg/m<sup>3</sup>となった。</li> </ul>
		生活環境の保全上の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化窒素「1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること」</li> <li>・浮遊粒子状物質「1時間値の1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下であること」</li> </ul>
		影響の程度	本事業計画における大気汚染防止対策は適切であり、また、予測の結果、全ての項目が生活環境の保全上の目標を満たしている。よって、本事業の実施により大気質に及ぼす影響はほとんどないと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物運搬車両の点検・整備</li> <li>・廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導</li> </ul>

表 6-1 総合評価 (2/4)

騒音	施設の稼働による騒音レベル	調査の結果	環境騒音の結果は、5 地点（最寄り住宅地付近（北側）、最寄り住宅地付近（東側）、最寄り住宅地付近（西側）、木六地区公民館付近、千厩高校付近）で実施した。結果は、昼間 34～46dB、夜間 29～37dB であり、全ての地点で環境基準を満たしていた。
		予測の結果	<b>【敷地境界】</b> 寄与値は、事業地敷地境界（東側）で昼間 47dB であった。 <b>【周辺の保全対象】</b> 環境騒音は、東側最寄り住宅付近の予測結果が最も高くなり、昼間 46dB であった。
		生活環境の保全上の目標	<b>【敷地境界】</b> 寄与値が、昼間 65dB 以下、朝夕 60dB 以下、夜間 50dB 以下となること。 <b>【周辺の保全対象】</b> 環境騒音が、昼間 55dB 以下、夜間 45dB 以下となること。
		影響の程度	本事業計画における騒音対策は適切であり、また予測の結果、生活環境の保全上の目標を満たしている。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす騒音の影響はほとんどないものと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低騒音型重機の使用</li> <li>・防音材による機械室の対策</li> </ul>
廃棄物運搬車両の走行による騒音レベル	調査の結果	調査の結果	道路交通騒音は、千厩森林事務所付近で昼間 61dB、夜間 52dB であり、環境基準を上回った。
		予測の結果	廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえた道路境界上の昼間の騒音レベルは 61dB となった。なお、廃棄物運搬車両の走行による寄与は 0.3dB と僅かであった。
		生活環境の保全上の目標	現況の運行ルートでの測定値（61dB）を著しく悪化させないこと。 ※運行ルート沿道の現況値で既に環境基準（昼間 55dB）を超過していることから、環境保全目標は、現況の騒音レベル 61dB を著しく悪化させないこととした。
		影響の程度	本事業計画における騒音対策は適切であり、また予測の結果、生活環境の保全上の目標を満たしている。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす騒音の影響はほとんどないものと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両運行時間の分散化</li> <li>・廃棄物運搬車両の点検・整備</li> <li>・廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導</li> </ul>
振動	施設の稼働による振動レベル	調査の結果	環境振動の結果は、5 地点（最寄り住宅地付近（北側）、最寄り住宅地付近（東側）、最寄り住宅地付近（西側）、木六地区公民館付近、千厩高校付近）で実施した。結果は、昼夜ともに 25dB 未満であった。
		予測の結果	<b>【敷地境界】</b> 寄与値は、事業地敷地境界（東側）で 46dB（昼間）であった。 <b>【周辺の保全対象】</b> 環境振動は、東側最寄り住宅付近の予測結果が最も高くなり、昼間 31dB であった。
		生活環境の保全上の目標	<b>【敷地境界】</b> 寄与値が、昼間 65dB 以下、夜間 60dB 以下となること（参考基準） <b>【周辺の保全対象】</b> 環境振動が、人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値 55dB 以下となること（参考基準）
		影響の程度	本事業計画における振動対策は適切であり、また予測の結果、生活環境の保全上の目標を満たしている。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす振動の影響はほとんどないものと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低振動型重機の使用</li> <li>・不要なアイドリングや空ぶかしを行わない</li> </ul>

表 6-1 総合評価 (3/4)

振動	廃棄物運搬車両の走行による振動レベル	調査の結果	道路交通振動は、千厩森林事務所付近で昼間 28dB、夜間 25dB 未満であり、要請限度値を満たした。
		予測の結果	廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえた昼間の振動レベルは 31dB となった
		生活環境の保全上の目標	道路境界上の振動レベルが、要請限度の昼間 65dB 以下及び人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値 55dB 以下となること。
		影響の程度	本事業計画における振動対策は適切であり、また予測の結果、生活環境の保全上の目標を満たしている。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす振動の影響はほとんどないものと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両運行時間の分散化</li> <li>・廃棄物運搬車両の点検・整備</li> <li>・廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導</li> </ul>
臭気 (悪臭)	施設 (埋立地) からの臭気の発生	調査の結果	令和 6 年 8 月 21 日に実施した対象事業実施区域内での臭気調査の結果は、参考目標とした規制基準を全項目で満たした。
		予測の結果	<p>対象廃棄物や埋立て構造も同様の舞川最終処分場 (現行施設) の供用時の周辺地域で実施した臭気調査 (埋立地から 0m 地点) では、全ての項目で悪臭物質濃度は規制基準を満たしていた。</p> <p>新最終処分場の埋立地から敷地境界までの距離は最短で約 26m の距離があり、最も近接する集落までの距離は約 70m 離れることから、舞川最終処分場の結果を見る限り、近接する集落で臭気の影響が生じる可能性は限りなく低いと考えられる。</p>
		生活環境の保全上の目標	悪臭防止法に基づく規制基準を満たすこと (参考基準)
		影響の程度	本事業計画における臭気対策は適切であり、また、予測の結果、施設から漏洩する臭気の影響は、生活環境の保全上の目標を満たすと想定される。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす臭気の影響はほとんどないものと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準好気性埋立構造の維持による臭気の発生抑制</li> <li>・廃棄物運搬車両の出口でのタイヤ洗浄</li> <li>・即日覆土の実施</li> </ul>
水質	浸出水処理施設からの処理水の放流	調査の結果	<p>千厩川 (合流後) は環境基準 (類型 A) が適用され、低水時期、豊水時ともに大腸菌数の環境基準を満たさなかったが、その他の項目は基準を満たした。</p> <p>放流水路 (北ノ沢川) は、環境基準が定められていないものの、参考として類型 A の基準を当てはめた。豊水時に溶存酸素量の基準を満たさなかったが、その他の項目は基準を満たした。</p>
		予測の結果	<p>浸出水処理施設からの処理水の放流による放流河川 (北ノ沢川) の将来の水質は、生物化学的酸素要求量 (BOD) 1.3mg/L、浮遊物質 2.3mg/L、ダイオキシン類 0.47pg-TEQ/L となった。</p> <p>千厩川における将来の水質は、生物化学的酸素要求量 (BOD) 1.0mg/L、浮遊物質 1.1mg/L、ダイオキシン類 0.066pg-TEQ/L となった。</p>
		生活環境の保全上の目標	環境基準値 (類型 A) を満たすこと
		影響の程度	本事業計画における水質の予測結果は、生活環境の保全上の目標を満たすものと想定される。よって、本事業により水質に及ぼす影響はほとんど無いものと評価する。
		環境配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸出水処理施設の適正な運転管理</li> <li>・定期的な水質検査の実施</li> </ul>

表 6-1 総合評価 (4/4)

地下水 水位	最終処分場の存在による地下水の流れ	調査の結果	既存のボーリング調査の結果などから、地下水は、地形的な勾配に沿って流下しているものと推定される。また、地下水位の低水時、豊水時の地下水位観測の結果、季節的な変化はほとんどないことが確認できた。
		予測の結果	本事業は、地形の現状地盤を活用して埋立地等を造成する計画となり、掘削箇所はわずかである。また、掘削箇所についても、風化花崗岩 (Grw)、強風化花崗岩 (Grww) 等の地下水の流れる透水性の高い層を改変するものではない。 以上のことから、地下水の流れの影響は対象事業実施区域の周辺には及ばないと想定される。
		生活環境の保全上の目標	地下水の水位及び流動状況に影響を及ぼさないこと
		影響の程度	本事業計画における地下水の予測結果は、生活環境の保全上の目標を満たすものと想定される。よって、本事業により地下水の水位及び流動状況に及ぼす影響はほとんど無いものと評価する。
		環境配慮事項	・地下水位のモニタリングによる異常の早期発見